

# チームけせんの和 だより

2016  
vol.9  
新年号

発行 陸前高田の在宅療養を支える会（チームけせんの和）

〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字鳴石42-5 TEL 0192-54-2111 FAX 0192-55-6118



## チームけせんの和に寄せて

済生会陸前高田診療 所長 伊 東 紘 一

### 「済生会陸前高田診療所の開設」

平成27年10月1日に竹駒町滝の里1番に開院しました済生会陸前高田診療所は、平成28年12月には気仙町今泉の中井に本設の診療所を開設いたします。今年の1年間は仮診療所ですが、マイヤの米谷春夫社長のご厚意により、診療所の場所を提供していただきました。済生会は105年前に明治天皇が発した「済生勅語」により医療の恩恵を受けることが出来ない人々を救済するようにとのお気持ちを受けて設立されたものです。以来、一世紀にわたり医療、福祉、介護の分野で活動を続けてきました。先の大戦の後、昭和26年に公的医療機関の指定、昭和27年には社会福祉法人の認可を受けて、現在は社会福祉法人恩賜財団済生会となっています。歴代の総裁は宮様であり、現在は秋篠宮殿下が総裁を務めております。日本全国にある病院は79、診療所は20、介護老人保健施設は30、救護施設は2、児童福祉施設が22、老人福祉施設が124、障害者福祉施設が8、看護師養成施設が8、訪問看護ステーションが53、地域包括支援センターが22、地域生活定着支援センターが4、その他7の合計379施設を有しています。また、済生会の特別事業として、瀬戸内海の65の島々の巡回診療活動を行う「済生丸」が活動しています。今回の陸前高田気仙町今泉中井に開設する「済生会陸前高田診療所」は済生会の二つ目の特別事業であります。

滝の里の仮診療所では、内科と整形外科で診療を開始しました。内科は伊東紘一が常勤で務めており、大谷寧子医師が非常勤で勤務をしております。整形外科は山形済生病院と関東の済生会病院から金曜日に診療に来ていただいています。さらに、川崎の古矢整形外科医院の院長が第5週の木曜日に診療に来ています。現在、看護師は5名おり、在宅訪問診療も開始しています。

済生会陸前高田診療所の到達目標は、地域包括ケアシステムのモデル事業を行うことであり、単に医療や介護・福祉を行うことに留まらず、地域住民の生活支援やコミュニティーの創造を行うことにあります。従って、診療所を中心に、気仙町今泉の町を創ることが目標であります。





## 2016年を迎えて

陸前高田の在宅療養を支える会 会長 石木 幹人

震災から節目の5年目を迎えます。山が削られ、その土砂がかさ上げに使われ、すごい勢いで陸前高田市の景観が変わってきています。復興住宅が立ち始め、高台には新築の家が沢山建って、生活が始まっています。市民生活も、仮設住宅から移り仮の住まいから通常の住まいに変わってきています。しかし、新しいコミュニティー作りや高齢化に伴う諸問題により、思うに任せない人たちも多くなります。これからの市民の生活が快適なものになるように、チームけせんの和もしっかりと頑張っていく必要があります。各人、各施設がしっかり未来を見すえ、今行わなければならないことを一歩ずつやっていきましょう。

## 劇団「ばばば☆」の紹介

松原指定居宅介護支援事業所 主任介護支援専門員 佐々木 康 裕

新年明けましておめでとうございます。TKWD（チームけせんの和だより）を御覧の皆さんいつも御世話になっております。私は普段、在宅の介護支援専門員として働いていますが、今回はその話は置いて、もう一つの顔である「劇団ばばば☆」の宣伝をさせていただきます。

私は一応…団長としての役割を頂いております。この劇団はチームけせんの和の「好ぎっけ」で結成され、寸劇を通じ市民の皆さんの健康増進や介護等に関する啓発を目的としています。配役と実際の職種をリンクする事でリアリティある演技（!?）と多様な職種からのアドバイスが可能となっています。演目は現時点で「減塩」「口腔ケア」「転倒予防」があり、これからもどんどん増やしていく予定です。皆さん御存知の通り、岩手県は脳卒中死亡率（全国ワースト1）と3歳半虫歯率（全国ワースト2）でランキングされています。陸前高田市は震災の影響もあり、高齢者や子供達を取り巻く状況は脳卒中死亡率や虫歯率以外の様々な面で待ったなしの状況（詳しくは書き切れないので割愛）であると、プライベートでも業務の中からも、切に感じております。これからも地道な活動を通し、まず陸前高田市民の意識改革が目下の目標です。呼ばれば時間の許す限りどこへでも出張講演する所存であります。将来的にはワーストから脱却し、長野県まで鎌田實先生に報告に行きたい（もちろん市の予算で）と思います。劇団員（特に演者）も随時募集中です。『自分の人生の中では誰もがみな主人公～。』って、私の生き神様であるさだまさしさんもおっしゃっていますよ！そこの引込み思案のあなた！私達と一緒に自分を変えてみませんか？

仕事をするのも、酒を楽しむのも、ローンを返すのも体が資本です。まずは自らの生活を見直しましょう（自戒も含む）。国は今さら地域包括ケアとか言っていますが、陸前高田市には「チームけせんの和」があり、元々、顔の見える関係が築かれていると思います。みなさん陸前高田市の更なる発展を目指し、一致団結して頑張っていきましょう！





## チームけせんの和に寄せて

陸前高田市社会福祉協議会 在宅福祉部門 介護支援専門員 脇坂悦子



**明けましておめでとうございます。  
本年もよろしく願いいたします。**



陸前高田市社会福祉協議会の在宅福祉部門主任をしております脇坂です。

本会の在宅福祉部門は、通所、訪問、居宅の3事業所で成り立っております。

震災により、休止しておりました通所介護事業所も、地域の皆様の暖かい見守り、ご支援を受け、広田町で平成25年8月1日にデイサービス「しおさいの家」として、新たなスタートを切りました。利用者の皆様には、ゆったりと穏やかな時間を過ごしていただいております。

訪問介護事業所は、介護保険事業の他に、障がい者移動支援事業、障がい者総合支援事業を行っており、人手不足という課題もありますが、職員一同、利用者様に寄り添い、心のこもった支援を心がけております。

居宅介護支援事業所は、2名の職員で行う小規模な事業所です。

東部（広田、小友、米崎、高田の一部）担当と、西部（高田の一部、気仙、竹駒、横田、矢作）担当に分担しており、利用者様、また利用者様を支える家族の意向や心身の状況を踏まえ、公平、中立の立場である事を常に心がけ支援しております。

「在宅療養を支える会」の設立に向けて、平成23年2月に、石木先生のお声かけで、医療、介護、福祉の関係者がふれあいセンターに集まったことを覚えています。

石木先生のお話の中では、「在宅療養を支えていくには、皆さんの協力が必要であり、是非この会に賛同し仲間になってほしい」ということなのだと思いなりに理解し、当時の職員の気持ちを確かめたことを覚えています。

現在、「チームけせんの和」として活動を続けており、会員の皆さんと顔の見える関係を築き、研修会で他のケアマネさんの事例を聞き、自分の知識として残すことや、できれば交流会に参加して色々な会員さんともっと話ができればと思っていますので、今後ともよろしく願いいたします。



## チームけせんの和 活動報告

平成27年度 第6回研修会（130名参加）

テーマ「自分ごととしての認知症予防」

講演1「災害時の心のケア」～うつ病・認知症予防～

講師 朝田 隆先生

筑波大学名誉教授・東京医科歯科大学医学部附属病院特任教授  
社団法人医療創知会理事長・メモリークリニックお茶の水院長



朝田隆先生より、被災地の認知症・うつ病の特徴や、陸前高田市の認知症予防などについてのお話がありました。基本は、“生活習慣病・うつ対応と、望ましいライフスタイル作り”だそうです。

講演2「認知症予防」～被災者支援から地域包括ケアへ～

講師 宇野 裕先生 筑波大学准教授・日本社会事業大学前専任理事

宇野裕先生より、被災地の認知症や高齢者支援に対する国・自治体の施策についての説明や、認知症ケアを通じた地域再生の可能性についてお話をしてくださいました。

研修会の最後には、朝田隆先生、宇野裕先生、石木幹人会長が、「認知症予防や改善に向けて私たちはどう行動するか」をテーマに対談しました。また、参加者との質疑応答も行われました。

## ★劇団ばばば☆ 公演報告★

今回の「劇団ばばば☆」は12月17日に米崎町の糠塚沢公民館にて、第3弾の演目となる「転倒予防～転倒知らずは寝たきり知らず～」の公演を行いました。この公演では、糠塚沢地域の方が出演して下さいました。劇団員顔負けの演技を披露して頂き、大変盛り上がった公演となりました。

転倒は誰にでも起こるものであり、介護が必要となる方の10人に1人が転倒を理由としています。転倒予防には、運動を行うのみでなく、自宅内（居間や廊下等）の環境を整えることや脳の機能も重要になります。公演中には転倒予防のための運動や、脳の機能を鍛えるトレーニング、自宅内の危険箇所や環境整備の方法などの紹介もありました。今回の公演を機に、気仙地域の方々が転倒予防への意識を持ってより元気になって頂けるように今後も活動の幅を広げていきたいと思っております。（文責 湯浅 淳 訪問リハビリさんぽ）



## 編集後記

新年明けましておめでとうございます。おだやかな正月も終わり普通の生活に戻りました。お陰様で「チームけせんの和」だよりも新年号の発行が出来ました。感謝申し上げます。1月中旬になってインフルエンザの発症がそちこちで聞かれます。下和野災害公営住宅でも県立高田病院のご厚意によって手洗いの研修を実施しました。栄養と手洗い、マスク対策でインフルエンザを遠ざけてそこまで来ている春を待ちたいものです。そして今年も「チームけせんの和」でみなさんと繋がっていきましょう。事務局一同、どうぞよろしくお願いたします。